

「高齢者の外出支援にかかるアンケート調査結果」

I. 調査概要

1. 調査趣旨

高齢者の外出支援にかかるアンケートは、磁気カード廃止に伴う高齢者外出支援カード配付事業終了後の高齢者の外出支援策について、様々な角度から検討を行うため、実施したものです。

2. 調査方法

調査対象：平成 29 年度高齢者外出支援にかかる交通系 IC カード購入等助成事業対象者
(平成 29 年 8 月 31 日現在で、本市に居住し、かつ住民基本台帳に記載されている 69 歳以上の方で、市民税が本人非課税の方)

調査方法：事業対象者へ送付する申込み書類（返信用封筒含む）にアンケートを同封することにより配付・返送。

配付数：52,103 人

回収数：16,296 件（うち、助成事業申請者数は 13,890 人）

回答率：31.3 %

実施期間：平成 29 年 9 月 19 日～平成 30 年 2 月 28 日

3. アンケート結果の見方

- (1) アンケート調査の質問項目ごとに単純集計しています。
- (2) 比率は各項目の無回答を含む合計数（集計対象を限定する場合はその該当対象数）に対する百分比（%）で表しています。
- (3) 複数回答の設問では、無回答を除く合計数に対する百分比（%）で表し、合計は 100%を超えます。
- (4) 回収したアンケートのうち、なんらかの記載のあったものを全て有効回答として集計しています。

4. アンケート結果から見てきたこと

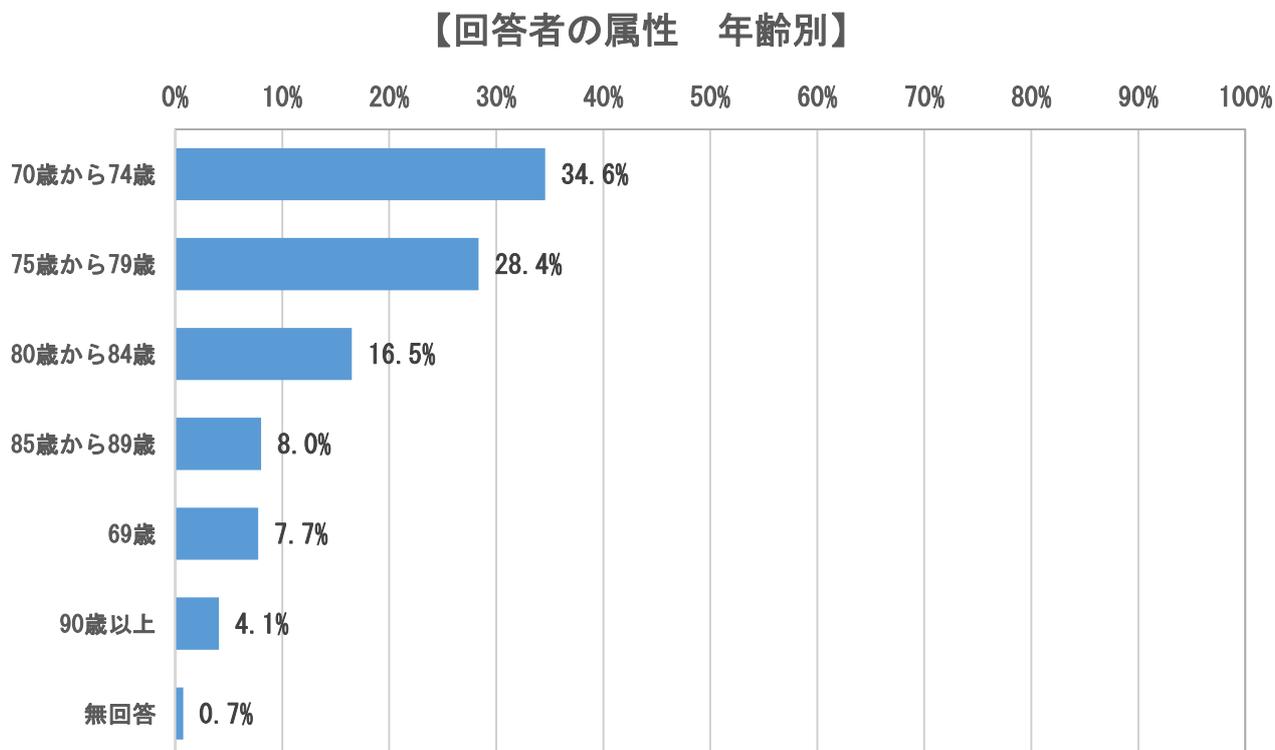
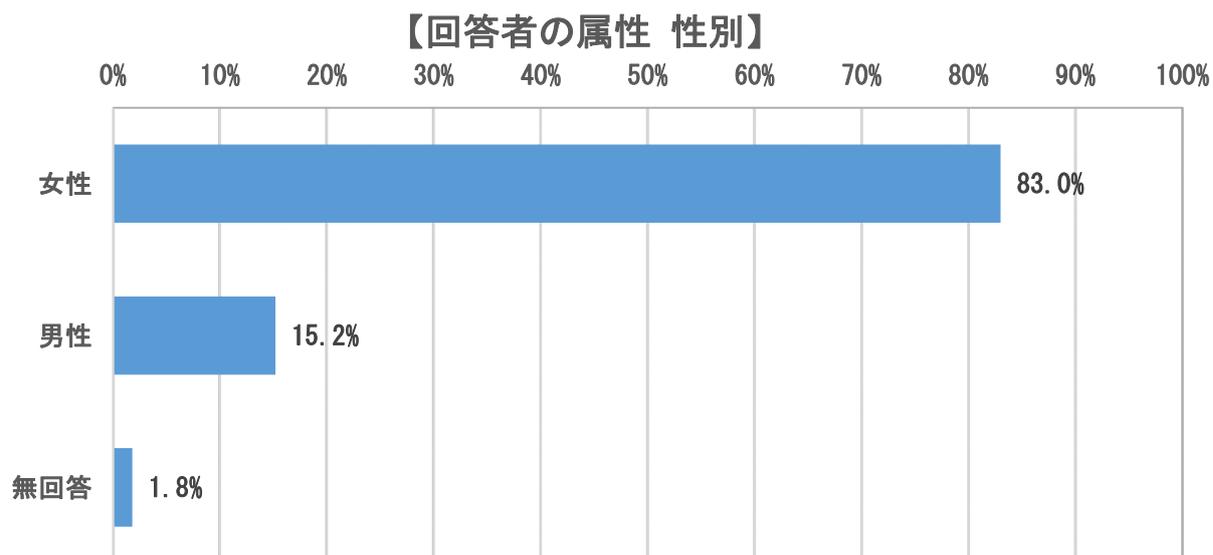
- (1) 本助成事業の申請者（13,890 人）を約 2,400 件上回る 16,296 件の回答を得ており、外出支援策に対する高齢者の関心は高いことが伺える。
- (2) 外出に支障を感じていない回答者が半数近くを占めた。一方、外出に困難を感じると回答した人の理由としては、自身の健康面の不安を挙げる人が圧倒的に多い。次いで、「出かけたいと思える外出先が少ない」が続く。
- (3) 必要と考える外出支援策については、交通機関の運賃助成との回答が 53.1%と最も多いが、残る半数近くは運賃助成を選択していない。また、イベントや集いの場、移動環境の充実を望む割合が比較的高くなっている。

Ⅱ. 高齢者の外出支援にかかるアンケート調査結果

回答者の属性

事業対象者の男女割合が、男性 19.7%、女性 80.3%であり、回答者のうち男性が 15.2%、女性は 83.0%となった。

また、年齢別では70歳から74歳が回答者全体の34.6%で最も多く、次いで75歳から79歳が28.4%となり、年齢層が高くなるにつれて減っていく傾向となった。

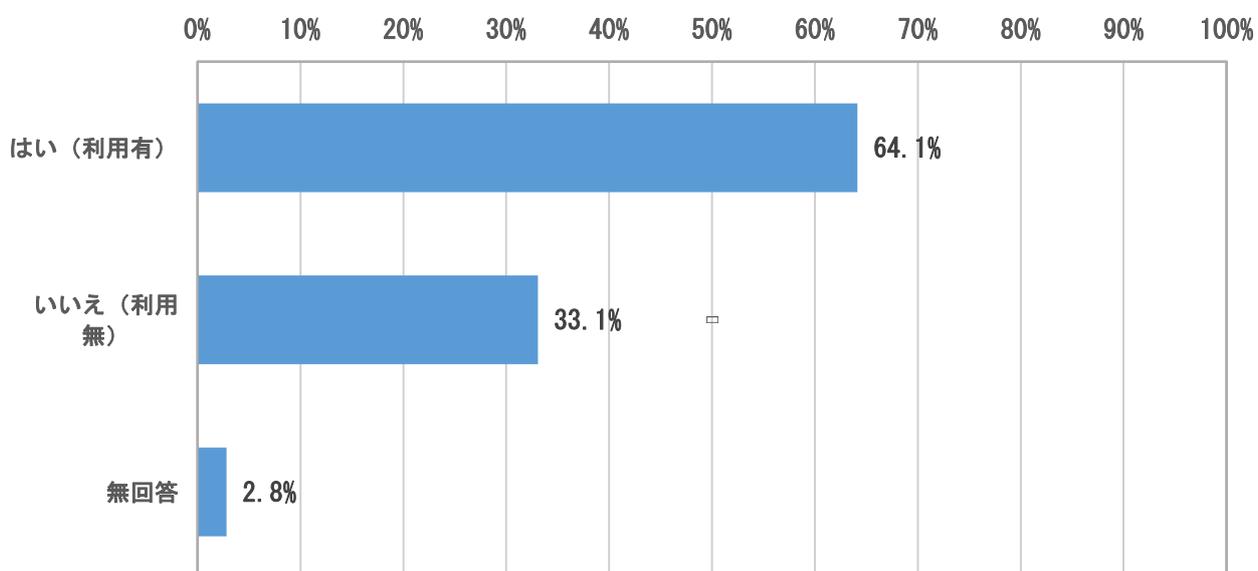


質問 1

これまで、高齢者バスカード及び高齢者外出支援カード（スルッとKANSAI Kカード）を利用したことがありますか。（あてはまるもの1つに○）（回答対象：16,296人）

アンケートに回答された人のうち、高齢者バスカード及び高齢者外出支援カードを利用したことがある人は64.1%、ない人が33.1%という結果であった。

【高齢者バスカード及び高齢者外出支援カードの利用経験】



質問2

質問1で「いいえ」と答えた方にお聞きます。利用しなかった理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○) (回答対象：質問1で「いいえ」と答えた5,391人) (回答総数：7,216件)

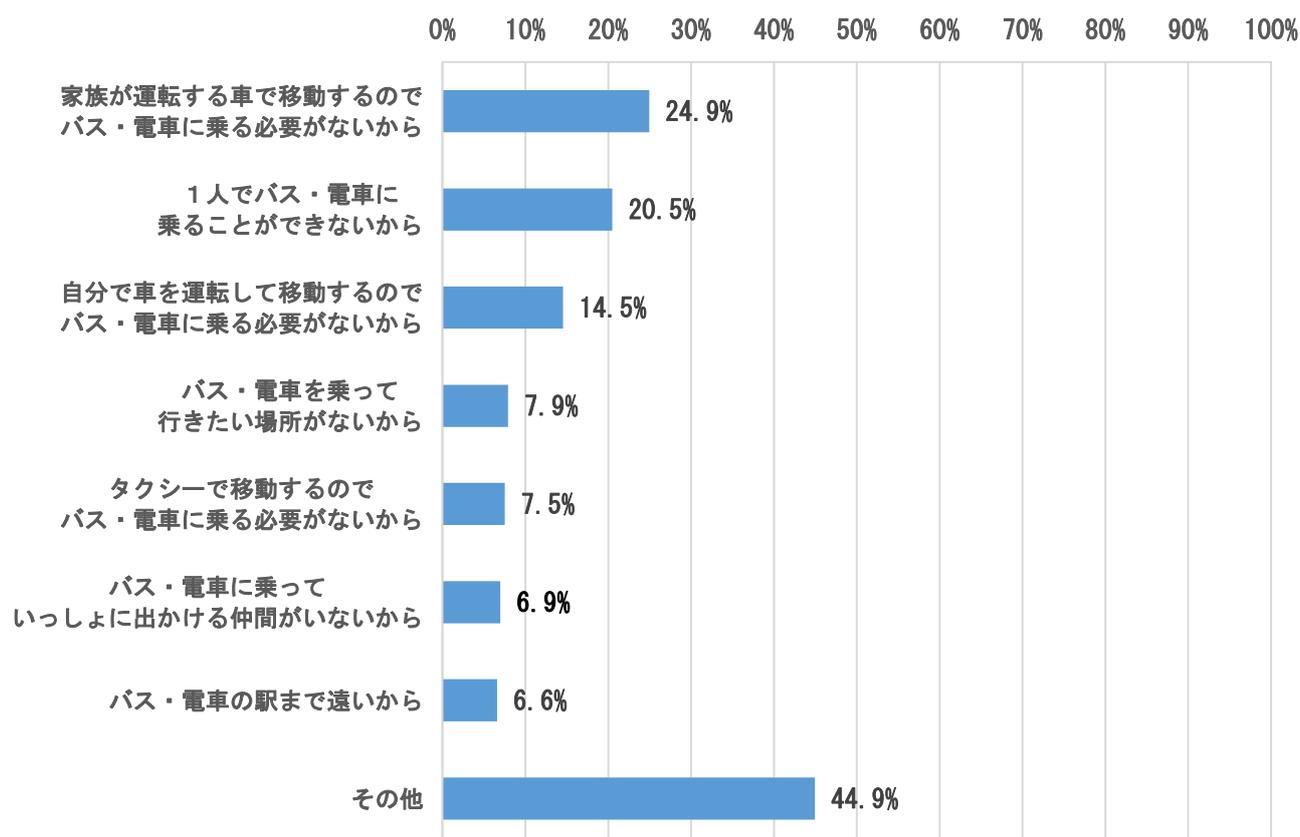
なんらかの理由により、単独で電車・バスを利用して移動することがないという項目の回答として、「家族が運転する車で移動するのでバス・電車に乗る必要がないから」(24.9%)、「1人でバス・電車に乗ることができないから」(20.5%)、「タクシーで移動するのでバス・電車に乗る必要がないから」(7.5%)となった。

一方、「自分で車を運転して移動するのでバス・電車に乗る必要がないから」が14.5%となった。

次いで、「バス・電車に乗って行きたい場所がないから」(7.9%)、「バス・電車に乗っていっしょに出かける仲間がないから」(6.9%)、「バス・電車の駅まで遠いから」(6.6%)となった。

また、44.9%が「その他」を選択している。

【利用しなかった理由】



質問3

あなたはどれくらいの頻度で外出しますか。交通手段ごとにお答えください。(あてはまるものすべてに○及び月あたりの回数を記入)(回答対象：16,296人)(回答総数：32,442件)

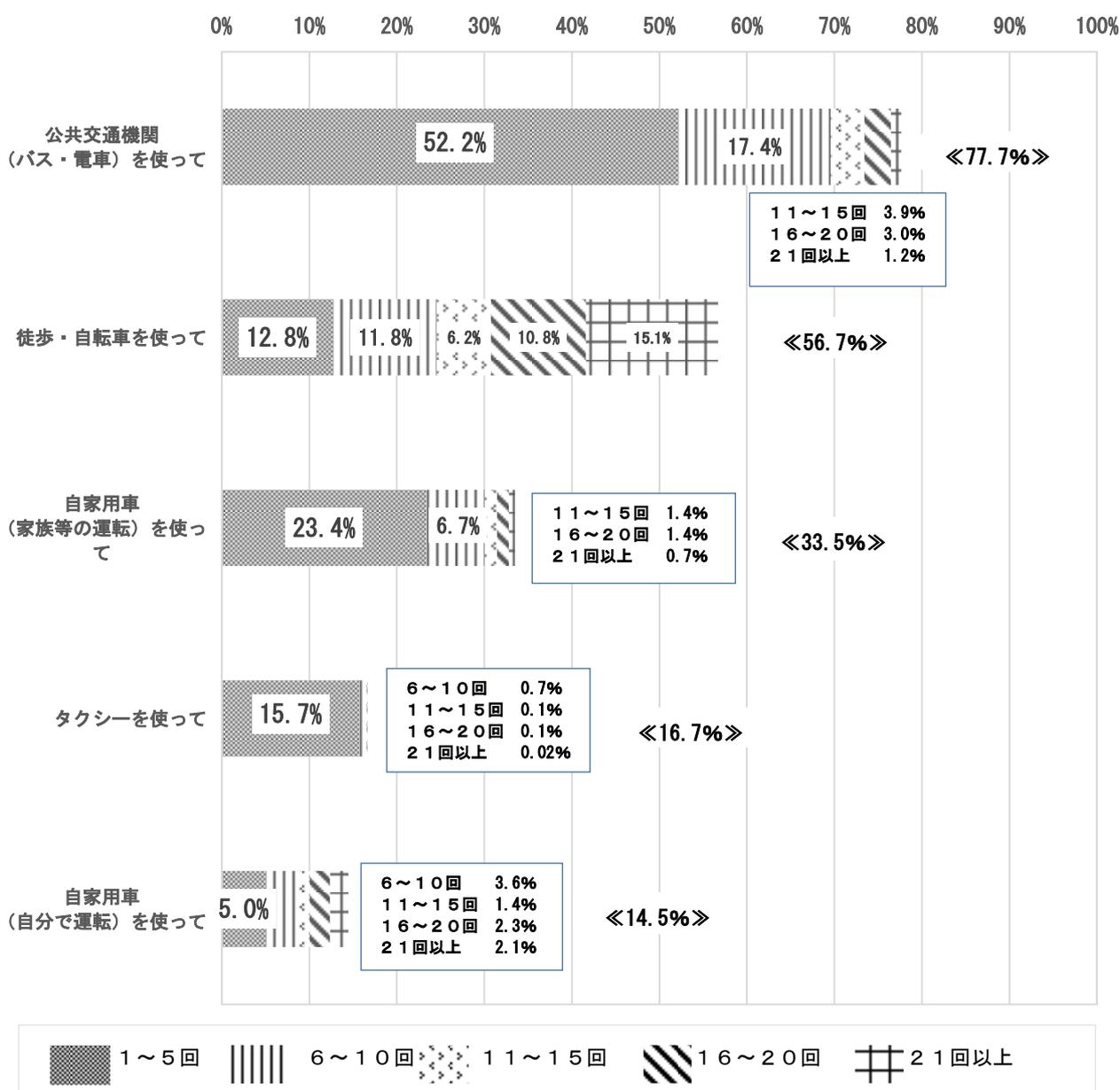
※《》は、頻度にかかわらず、回答者が選択した項目を1として集計し表した。

※交通手段ごとに頻度を集計し、百分比(%)で表した。

外出の頻度に関しては、「徒歩・自転車を使って」(56.7%)の内訳を見ると、月21回以上(15.1%)、月16~20回(10.8%)となるなど、全体の4分1を超える人が月16回以上外出している。

移動手段については、「公共交通機関(バス・電車)を使って」(77.7%)が最も多い。また、「自家用車(自分で運転)」が14.5%と低い結果となった。

【外出の頻度と移動手段について】



質問 4

外出の目的として、次のうち頻度の高い順に数字を記入してください。(回答対象：16,296人)

(回答総数：52,542件)

※《》は、順位にかかわらず、回答者が選択した項目を1として集計し表した。

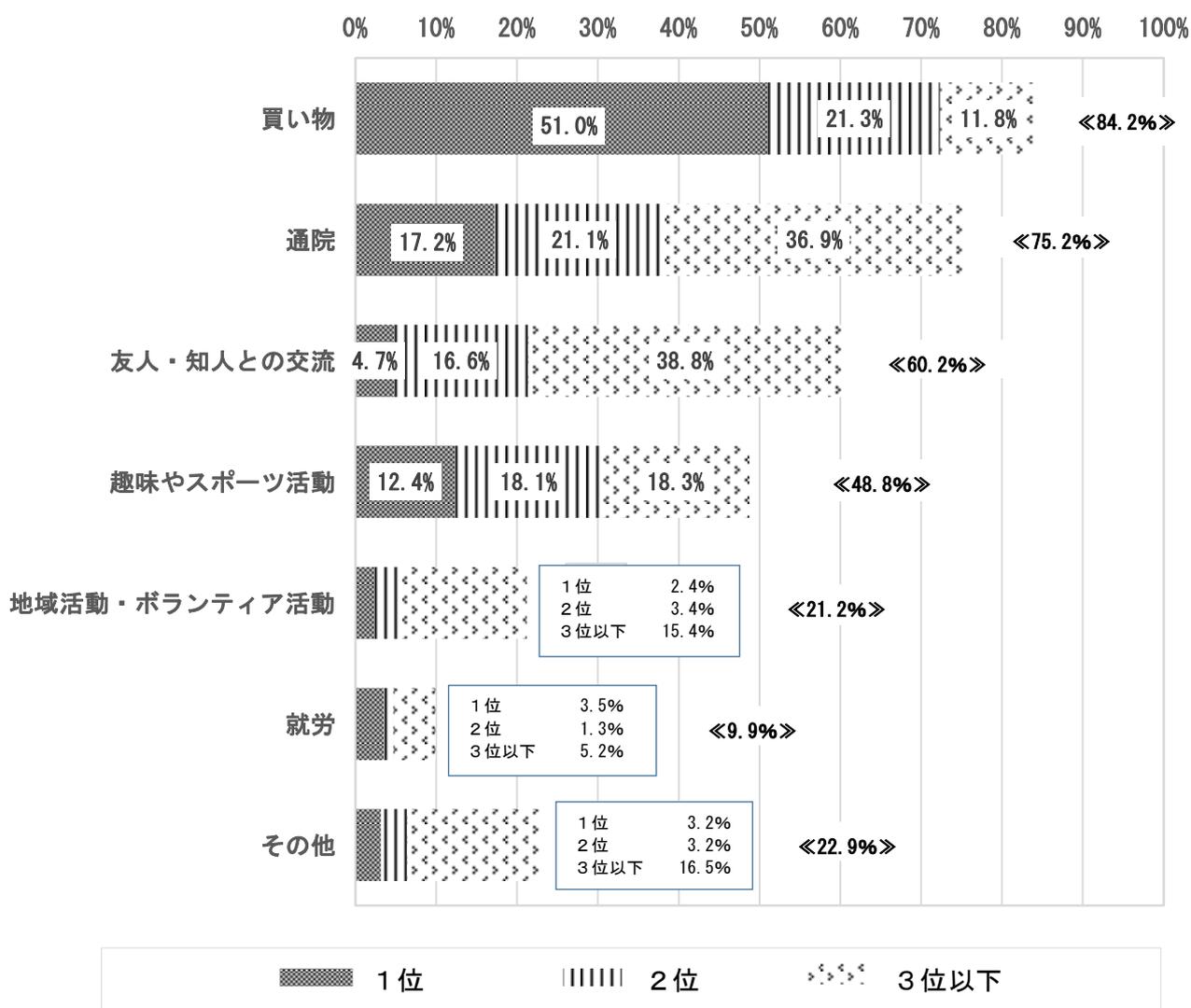
※外出の目的ごとに順位を1位、2位、3位以下に区分し、それぞれ百分比(%)で表した。

「買い物」が84.2%で、外出頻度も1位と答えた人が非常に多い結果となり、次いで「通院」(75.2%)が続くが、外出の頻度としては3位以下と答えた人が多い結果となった。

次いで「友人・知人との交流」(60.2%)、「趣味やスポーツ活動」(48.8%)、「地域活動・ボランティア活動」(21.2%)となり、社会参加を理由とする外出も多い結果となった。

また、「就労」は、9.9%、「その他」は、22.9%であった。

【外出の目的と頻度について】



質問5

外出が「むずかしい」「おっくうである」と感じることはありますか。(あてはまるもの1つに○)

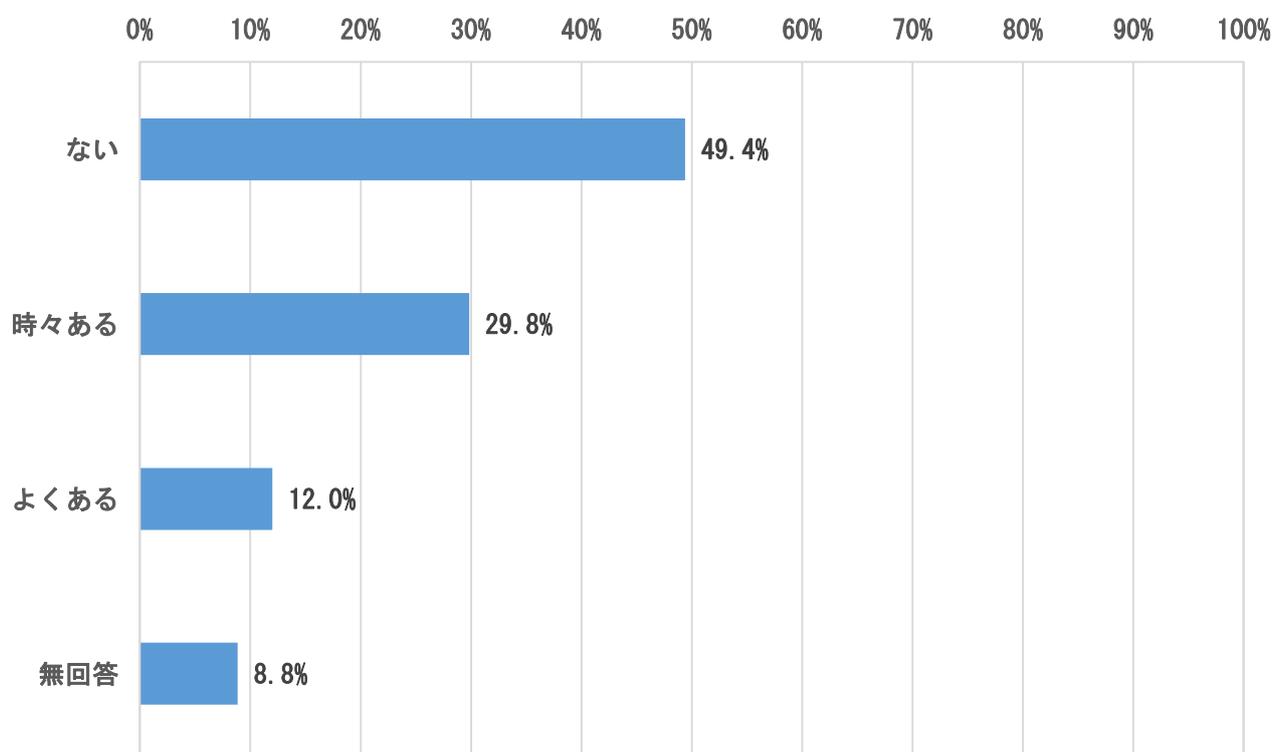
(回答対象：16,296人)

「ない」と答えた人は49.4%となり、約半数は外出に支障を感じていない。

一方、「よくある」「時々ある」と答えた人がそれぞれ12.0%、29.8%となり、計41.8%が外出をおっくうと感じている結果となった。

また、無回答は8.8%であった。

【外出が「おっくう」「むずかしい」と感じる有無】



質問6

質問5で「よくある」または「時々ある」と回答された方にお尋ねします。そのように感じる理由・原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

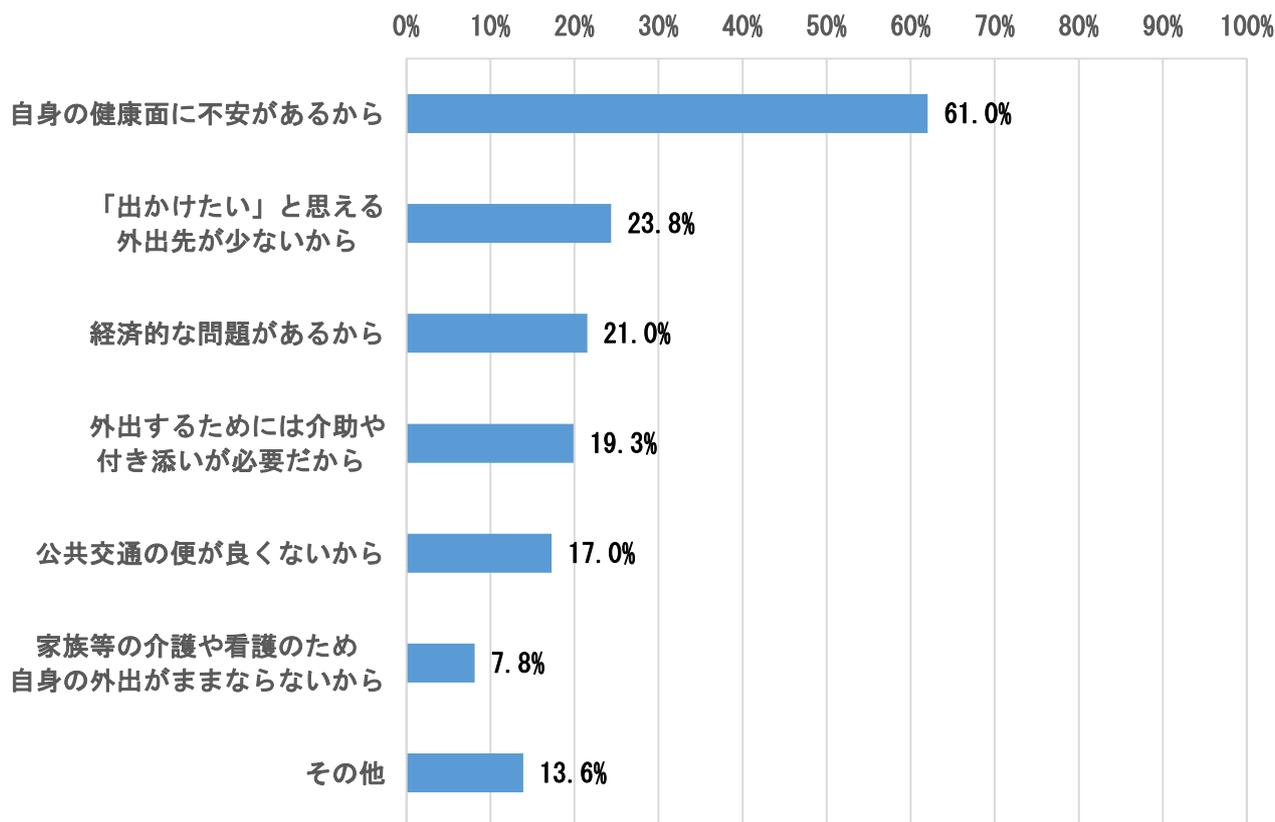
(回答対象：質問5で「よくある」「時々ある」と答えた6,807人)(回答総数：11,136件)

「自身の健康面に不安があるから」が61.0%と多く、「外出するためには介助や付き添いが必要だから」の19.3%とあわせて、外出に支障をきたしている原因として自身の健康面に起因する項目を選択している人が多く見受けられる。

次いで、「出かけたいたいと思える外出先が少ないから」(23.8%)、「経済的な問題があるから」(21.0%)、「公共交通の便が良くないから」(17.0%)と続く結果となった。

「家族等の介護や看護のため、自身の外出がままならないから」が7.8%、「その他」は13.6%となった。

【外出が「おっくう」「むずかしい」と感じる理由】



質問7

本市では、新たな高齢者外出支援事業を検討していますが、社会参加と介護予防のためにはどんな事業・支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○) (回答対象：16,296人)

(回答総数：47,691件)

「電車・バスの運賃助成(年1,000円)を行う」が53.1%と最も多かったが、残る約半数は必要な支援として運賃助成を選択していない。

一方、健康や介護予防、社会参加といったキーワードに結びつく支援を希望する回答として、「無料または低料金で高齢者が楽しめるイベントについて、情報提供を行ったり、主催したりする」(40.6%)、「身近な地域で、高齢者同士の「集いの場」「通いの場」を数多く作る」(33.7%)、「送迎サービス付きの高齢者リハビリ教室を行う」(24.7%)等が多い結果となった。

また、「バス利用時における環境を充実(バス停にベンチや屋根等を設置)させる」(36.1%)、「移動環境のバリアフリー化(エレベーターまたはスロープを設置)を進める」(27.7%)など、移動環境を充実させる支援を希望する割合が比較的高くなっている。

また、「一人では出かけられない高齢者に対して、外出に付き添うサービスを行う」は24.9%であった。「外出支援事業は必要ない」は2.4%となり、低い割合となった。「その他」は9.6%であった。

【高齢者の社会参加と介護予防のために必要と思う支援について】

